

# 令和3年度 学校経営計画

東京都立足立東高等学校  
校長 平田 誠一

## 1 目指す学校像

### (1) 学校の教育目標

『心身ともに健康で、知性と感性に富む人間性豊かな都民を育成する』

本校を取り巻く環境や生徒像が日々変化していく中で、エンカレッジスクールとしての特色ある教育課程を編成して落ち着いた学校環境を整備する。また「学びの基盤」プロジェクト等を推進し、「**元気、本気、やる気の足立東高校**」をスローガンとして、基礎基本を身に付けて生徒自らが積極的に知性と感性を磨き、将来、社会貢献に寄与する人間性豊かな生徒を育成する。

### (2) 目指す学校像

あらゆる教育活動において、教職員全体が教育目標の達成と生徒一人一人への指導育成に向けて、それぞれの力量を最大限に発揮した教育を実践する。また、教職員は全体の奉仕者及び教育のプロとしての自覚と使命感、責任感をもって職務を遂行するとともに、「厳しく教え、優しく育てる」ことを踏まえて新しい時代における本校の在り方を追求し、生徒や保護者、都民からより一層信頼される魅力ある学校づくりを目指す。

- ① 生徒一人一人の人権及び個性が十分に尊重される学校
- ② 生徒の主体的・対話的で深い学びを促し、生徒の実態に応じた学習指導を行ない、読み解く力や自ら学ぶ力を向上させることにより、基礎基本の定着に努める学校
- ③ 生徒が相互に学び合い、自己の夢や進路の実現に向けて前向きに努力する学校
- ④ 規則を遵守し、ルール、マナー、モラルを重んじて、規範意識と社会性を育成する学校
- ⑤ 心とからだを鍛え、やさしい心とたくましいからだを育む学校
- ⑥ 自他を敬愛する心、奉仕の心、社会貢献の精神を育む学校
- ⑦ 地域社会と積極的にかかわり、地域から愛される学校
- ⑧ 体罰の根絶を図り、健全な指導を実践する学校

## 2 中期的目標と方策

今年度はエンカレッジスクールに学校形態を再編して19年目となるが、再編後の学校評価や進路決定率は高くなってきている（令和2年度はコロナ禍の影響により進路決定率は低下）。今後も引き続き学び直しを原点としながら、学力の向上と生きる力の育成を図っていく。また、エンカレッジスクール再編後の取組みを検証して現在の課題

を見出し、これまでの実践をグランド・デザインと新教育課程編成の中で具現化するとともに、あらたに「学びの基盤」プロジェクト等を活用し、教育活動の質を高めていく。さらに、『エンカレッジスクールのフロンティア校としての王道』を守り抜き、さらにパワーアップを図ることによって、都立高校の中での明確な役割と立ち位置を確立していくという責務を果たす。

- (1) 「学びの基盤」プロジェクト等を活用し、30分授業、習熟度別授業、少人数授業によって基礎学力の定着を図り、スタディガイダンス（朝10分授業・1単位）を実施する。
- (2) 指導内容・方法を研究し、分かる授業及び生徒が主体的に学べる授業を展開して達成感や成就感をもたせる。
- (3) 態度教育に重点を置き、基本的な生活習慣、社会性と規範意識を身に付けさせる。
- (4) 多様な体験学習講座を設定し、市民講師や事業主等との連携を深めて特色ある教育を推進するとともに、生徒の自己肯定感や自己有用感を涵養する。
- (5) キャリアガイダンスを組織的かつ計画的に実施して勤労観を育て、進路実現に向けた意識を向上させる。
- (6) 学校行事、部活動、生徒会活動の活性化を図って自主・自立の精神を育てるとともに、達成感や成就感をもたせる。
- (7) オリンピック・パラリンピックに関わる教育等を通して国際理解教育を推進する。
- (8) 防災教育の推進に努め、地域行事にも積極的に参加して社会に貢献する態度を育成する。
- (9) 心に迫る指導を実践して体罰やいじめの根絶を図り、健全で豊かな生徒指導を実践する。
- (10) 新学習指導要領本格実施に向けて、新教育課程の細部に至るまで作り込み、エンカレッジの本質を追求するとともに、校内体制を整備する。
- (11) 新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、安心・安全な環境の確立に努めるとともに、「生徒の学びを止めない」学習指導体制を確立する。

### 3 今年度の取組目標と方策

#### (1) 学習指導

目標：3カ年を見通し「学びの基盤」プロジェクトを活用した基礎学力の定着	
方策（下位目標）	数値目標
① 「学びの基盤」プロジェクトの推進 【1-1】	・都教委と連携した研究授業（年3回）
② 「基礎基本学習個別支援事業」の推進【1-2】	・外部人材を活用した放課後個別指導教室 〔仮称〕（週4日以上）
③ 足立東版学カスタンダードに基づく	・学校評価による満足度80%以上

教科指導【1-3】	
④ 授業規律の徹底【1-4】 (チャイム始業、チャイム終業)	・授業遅刻、授業妨害行為(私語・反抗)提出物未提出などの常習者0人
⑤ 習熟度別授業、少人数授業による個に応じた指導の充実【1-5】	・学校評価による満足度80%以上
⑥ 主体的・対話的で深い学びの推進【1-6】	・インプット(読み取る)、アウトプット(話す・書く)、共有(話し合い・伝え合い) ・本質を踏まえた問い、課題解決学習、振り返り学習の視点を踏まえた授業観察(年2回)
⑦ デジタル技術を活用した教科指導【1-7】	・ICT等を活用し、生徒の興味・関心を引き出す授業(授業観察年2回) ・休校、分散登校時のオンラインを活用した授業(90%以上)
⑧ 体験学習の充実【1-8】 ・「自分の楽しみ等」を見つけるための講座(スポーツ、文化芸術、日本文化) ・「将来のためになる技術・資格・職業観」を身に付ける講座	・学校評価による満足度80%以上
⑨ 自学自習の態度の育成【1-9】	・スタディガイダンス(毎朝10分)
⑩ 授業力向上のための相互授業参観の実施【1-10】	・授業参観シート(年2回提出)
⑪ 主権者教育の推進【1-11】	・有権者生徒の投票率60%以上
⑫ 特別支援教育の視点の活用【1-12】	・生徒理解のための校内研修(年2回) ・通級指導(申請、認定に応じて)
⑬ 各種検定への挑戦【1-13】	・各種検定合格者(のべ30名以上)

## (2) 進路指導

目標：キャリアガイダンスの充実と進路実現に向けた支援	
方策(下位目標)	数値目標
① 関係機関との連携【2-1】 (ユースソーシャルワーカー、ユースアドバイザー、就職ナビゲーター等)	・進路決定率90%以上 ・生徒情報交換会(随時)
② 個別指導の徹底【2-2】	・進路未決定者15名以下 ・三者面談(年1回以上)
③ 企業訪問、オープンキャンパス、説明会への参加促進【2-3】	・進学(一人3校以上) ・就職(8月中に受験企業決定)

④ 望ましい勤労観、職業観の育成 【2-4】	・講演会、見学会（10回） ・インターンシップ（希望生徒1～2日）
⑤ キャリア・パスポートを活用した 3年間を見据えた組織的な指導 【2-5】	・キャリアガイダンス（全学年週1回）

### （3）生活指導

目標：地域に認められ、社会生活の基礎となる基本的な生活習慣の確立	
方策（下位目標）	数値目標
① 「都立高校生活指導指針」に基づいた指導の徹底【3-1】	・特別指導（10件以内） ・頭髪、服装違反常習生徒（0人）
② 中途退学者の減少【3-2】	・中途退学者（20名以内）
③ セーフティ教室の充実【3-3】 （交通安全、SNS利用等）	・自転車事故（0件） ・自転車マナーの苦情（減少）
④ 防災教育の推進【3-4】	・避難訓練（4回） ・地域と連携した防災訓練（1回）
⑤ いじめ総合対策に基づいた組織的な対応【3-5】	・いじめによる中途退学、不登校（0人）
⑥ 体罰、不適切な指導の根絶【3-6】	・体罰0件、暴言0件 ・校内研修（年3回）

### （4）特別活動（行事・部活動・生徒会活動）

目標：自主・自立の精神と帰属意識の涵養	
方策（下位目標）	数値目標
① 学校行事の活性化【4-1】	・生徒による学校評価の満足度80%以上 ・体育祭来校者（320名以上） ・東輝祭来校者（971名以上） ・合唱コンクール参観者（50名以上）
② 「部活動に係る活動方針」に基づく部活動の推進【4-2】	・部活動加入率60%
③ 中学校や地域と連携した部活動の推進【4-3】	・部活動体験入部（3回） ・地域イベント等への参加（20回）
④ オリンピック・パラリンピック教育と国際理解教育の推進【4-4】	・パラリンピック種目の体験学習 （年4回以上）

(5) 健康・環境指導

目標：健康的な生活習慣と豊かな心の育成	
方策（下位目標）	数値目標
① 教職員の資質向上【5-1】	・健康教育研修会、特別支援教育研修会 (年2回以上)
② 安全・安心な学校づくり【5-2】	・施設・設備の巡回点検(月1回)
③ スクールカウンセラー等による個別指導の充実【5-3】	・1年生全員面接(年1回)
④ スクールカウンセラー、学校医(精神科医師)、巡回相談員と連携した特別支援教育の充実【5-4】	・随時(必要に応じて)
⑤ 健康教育の推進【5-5】	・歯の健康教育(年2回) ・心の教育(年1回) ・薬物乱用防止教室(年1回)
⑥ 美化・清掃活動の徹底【5-6】	・特別清掃(年6回)
⑦ 生命尊重教育の推進【5-7】	・SOSの出し方に関する教育(年3回) (全員面接を含む)
⑧ 教育相談体制の充実【5-8】	・教育相談委員会(週1回)
⑨ 「アクティブプラン to 2020」に基づく基礎体力の向上【5-9】	・体育の授業時の体づくり運動(毎時間)
⑩ 新型コロナ感染予防対策の徹底【5-10】	・健康観察指導(状況に応じて毎日) ・校内消毒(状況に応じて毎日)

(6) 入試・募集・広報活動

目標：戦略的な広報活動と応募平均倍率2.0倍以上	
方策（下位目標）	数値目標
① 「生徒の姿が見える」説明会等の工夫【6-1】	・学校見学会(参加者196名以上) ・学校説明会(参加者200名以上) ・入試個別相談会(参加者79名以上)
② ホームページの充実【6-2】	・ホームページ更新(200回以上)
③ 「中学生目線」の授業公開の工夫【6-3】	・授業公開(年2回)(参観者50名以上)
④ 学校案内の刷新【6-4】	・令和3年度中
⑤ 全教職員による中学校訪問【6-5】	・夏季休業中(125校以上)
⑥ 地域主催学校説明会への参加【6-6】	・参加説明会場(8か所以上)

	・参加合計人数（287名以上）
⑦ 校長・副校長によるトップセールス【6-7】	・近隣中学校訪問（100校以上） ・近隣塾訪問（100校以上）
⑧ 文化・スポーツ等特別推薦の実施【6-8】	・応募倍率 2.0倍以上

(7) 経営企画室の参画

目標：教職員と一体となった経営参画の推進	
方策（下位目標）	数値目標
① 経営参画ガイドラインに基づいた経営参画【7-1】	・庶務、経理、学事等の確実な執行 ・会計事故等（0件）
② エンカレッジスクールの特色を推進する適正な予算管理と執行【7-2】	・自律経営予算のセンター執行率 65%
③ 授業料等の未納改善【7-3】	・授業料未納率（0%）
④ 図書室業務の推進と学習支援及び授業力向上支援【7-4】	・蔵書点検（年1回） ・昼休み、放課後の自習スペース開放（開館日は毎日） ・アクティブ・ラーニング関連書籍（20冊）
⑤ 安全・安心な学校づくり【7-5】	・施設・設備や環境の保守改善（随時）
⑥ 適正な入学者選抜業務【7-6】	・入選事故（0件）
⑦ 電子起案の推進【7-7】	・電子起案決定率（90%以上）

(8) 「開かれた学校づくり」の推進

目標：地域から認められる学校づくり	
方策（下位目標）	数値目標
① 学校運営連絡協議会の充実【8-1】	・協議会（年3回） ・評価アンケートによる肯定的な回答（80%以上）
② 地域との連携【8-2】 （家庭、地域住民、商店街等）	・地域行事への参加（年20回）
③ 学校施設の有効活用【8-3】	・施設開放（年間30団体以上） ※コロナ禍の状況により中止
④ 地域のニーズに応える公開講座【8-4】	・年間1講座（参加人数5人以上）
⑤ 地域住民への学校公開【8-5】	・地域代表による参観人数（5人以上）

(9) 学校経営・組織

目標：「共育協働」による学校経営の推進	
方策（下位目標）	数値目標
① 企画調整会議の充実【9-1】	・週1回
② 主幹会議によるミドル・マネジメント機能の推進【9-2】	・週1回
③ 円滑な分掌・学年運営【9-3】	・通年
④ 適正な予算編成と執行【9-4】	・予算調整会議（年2回以上）
⑤ 透明性ある業者選定【9-5】	・業者選定会議（年4回以上）
⑥ OJT 診断基準、執務ガイドラインに基づく人材育成【9-6】	・自己申告時に点検（年1回）
⑦ 学校経営計画に基づいた自己申告目標の設定【9-7】	・自己申告面接（年3回）
⑧ 服務事故を「しない・させない・許さない」職場づくり【9-8】	・服務事故0件 ・悉皆校内研修（年3回）
⑨ 情報セキュリティにかかわる規定の厳守【9-9】	・個人情報紛失事故0件 ・クリーンデスク（随時）
⑩ ライフ・ワーク・バランスの推進【9-10】	・各種会議時間（60分以内） ・閉庁日（年5日） ・時間外労働時間（1か月45時間以内） ・育児参画支援（通年）
⑪ 新学習要領実施に向けた教育課程の編成【9-11】	・教育課程委員会（年5回以上）
⑫ 職場労働環境の改善【9-12】	・安全衛生委員会（年12回）
⑬ PT（公募）による迅速な課題対応【9-13】	・課題に応じて（随時）